

# 周南市公共施設再配置計画について

～和田地域モデル事業～



周南市 政策推進部 施設マネジメント課

## 公共施設の老朽化問題

### 国の動き

平成25年11月

「インフラ長寿命化基本計画」の策定

(インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議)

平成26年4月

全国の地方自治体へ

「公共施設等総合管理計画」の策定を要請

(総務省)

## 公共施設の老朽化問題

### 周南市の動き

平成25年11月 県内初  
「周南市公共施設白書」作成

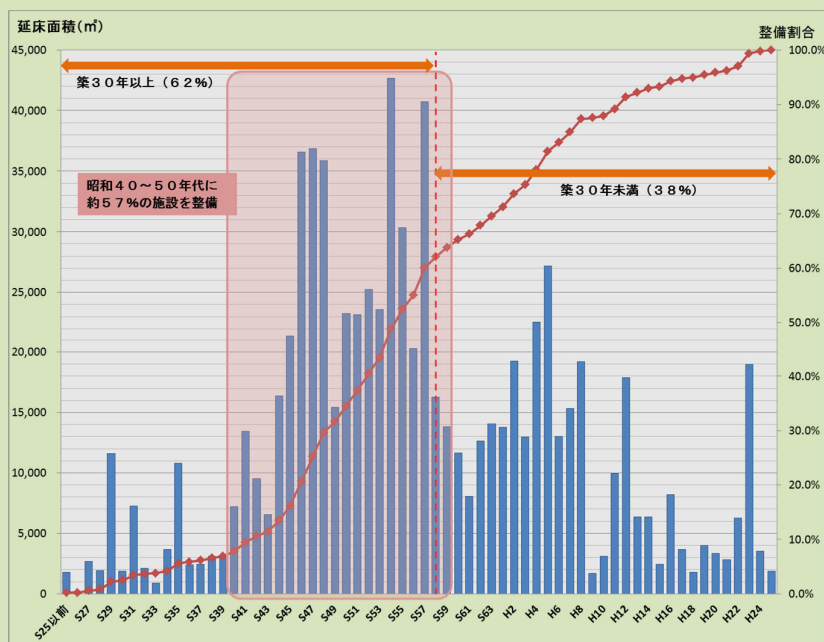
平成26年3月 県内初  
「周南市公共施設再配置の基本方針」策定

平成27年8月 県内2番目  
「周南市公共施設再配置計画」策定

「公共施設の老朽化問題」のため

## 公共施設の老朽化問題

### ◇周南市が保有する施設の年代別整備状況



◇周南市の公共施設は昭和40年代の高度経済成長期から昭和50年代にかけて、**人口増加などに対応するため集中的に整備された。**

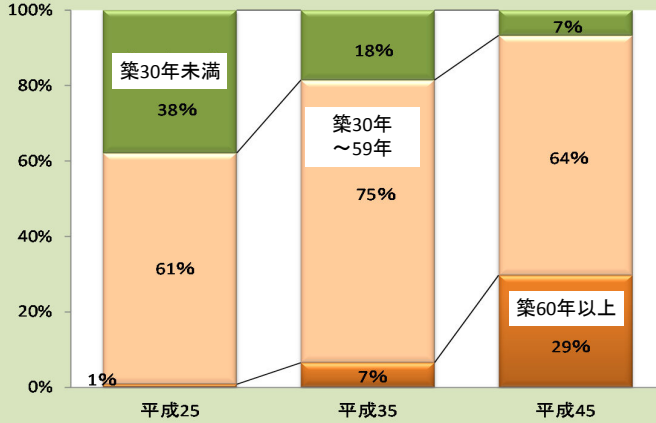
◇その結果、延床面積で**施設の約6割が整備後30年を経過し、一斉に更新の時期を迎えている。**

※国をはじめ、全国の地方自治体がほぼ同じ傾向にある

# 公共施設の老朽化問題

## ◇施設の老朽化

平成25年 → 平成35年 → 平成45年



# 公共施設の老朽化問題

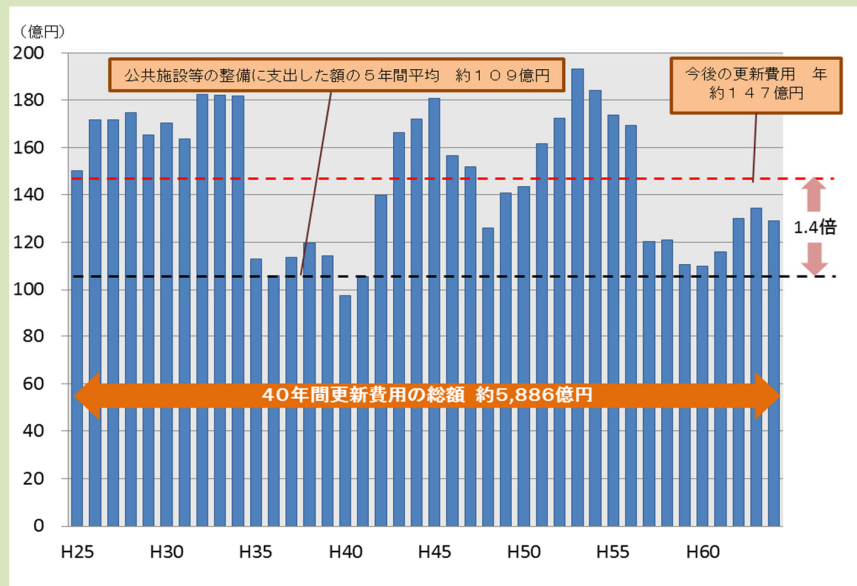
## ◇今後40年間に必要な更新等の経費

周南市が現在保有する公共施設を同じ規模で更新しようとする、

**今後40年間で約5,886億円が必要**  
と試算

↓  
**年間換算約147億円**

これは過去5年間に公共施設等の整備に支出した額の平均の**約1.4倍**にあたる

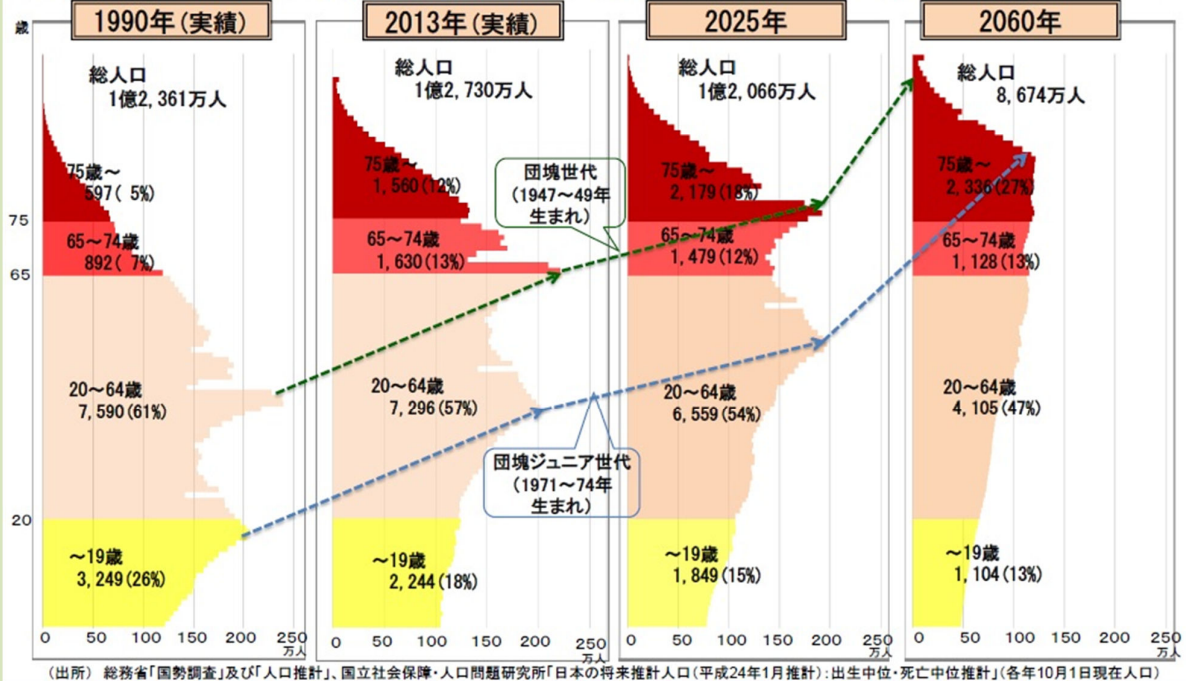


今の財政状況や今後予想される税収の伸び等からすると、その**経費のうち30%にあたる約1,766億円が不足**すると予測される。

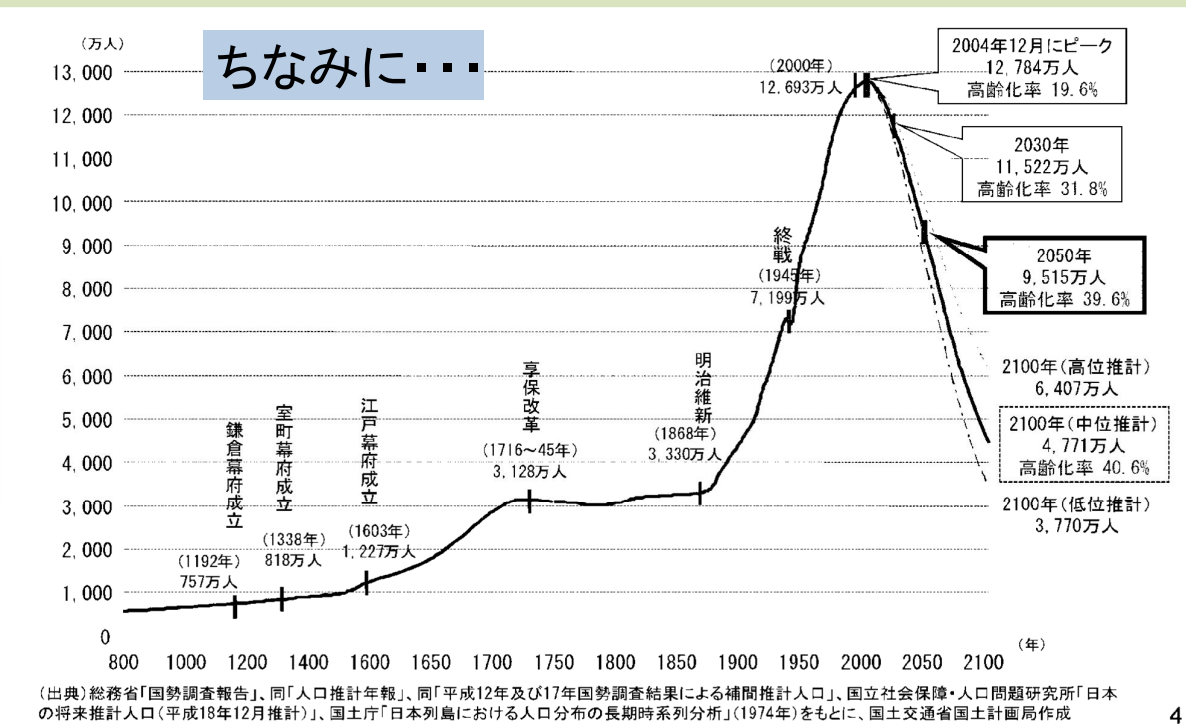
# 公共施設の老朽化問題

## 日本の人口ピラミッドの変化

○団塊の世代が全て75歳となる2025年には、75歳以上が全人口の18%となる。  
 ○2060年には、人口は8,674万人にまで減少するが、一方で、65歳以上は全人口の約40%となる。

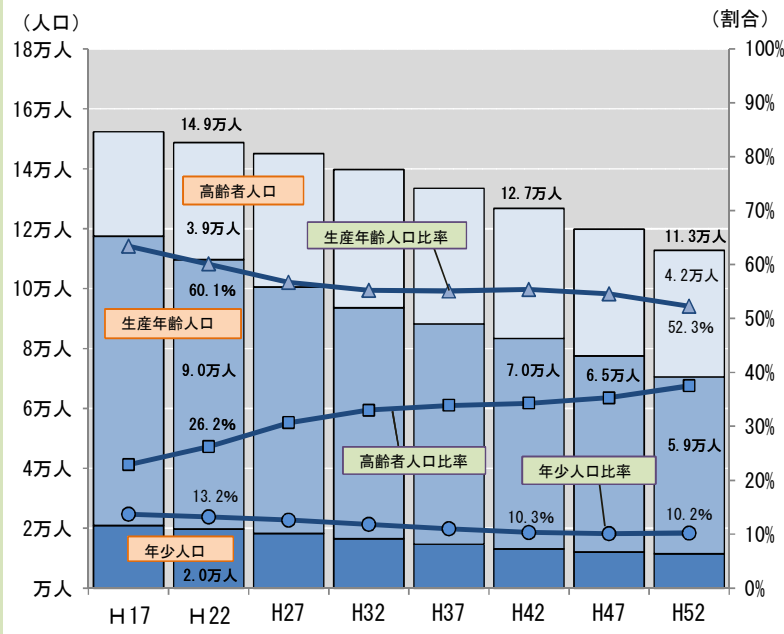


# 公共施設の老朽化問題



## 公共施設の老朽化問題

### ◇周南市の人口の将来推計



#### 〈人口減少社会の到来〉

S60: 167,302人(合併前)  
H22: 149,487人  
→H42: 126,809人(△22,678人)  
→H52: 112,771人(△36,716人)  
※( )内はH22との対比数値

#### 〈減少する生産年齢人口〉

H22: 89,906人(60.1%)  
→H42: 70,272人(55.4%)  
→H52: 59,025人(52.3%)  
※( )内は全人口に占める割合

#### 〈超高齢社会の到来〉

H22: 39,122人(26.2%)  
→H42: 43,476人(34.3%)  
→H52: 42,296人(37.5%)  
うち75歳以上28,435人(22.4%)  
※( )内は全人口に占める割合

## 公共施設の老朽化問題

### 今後、人口減少社会、超高齢社会が到来



- ・働く世代の減少  
→ 税収等の減少 → 使えるお金(歳入)が減る
- ・高齢者人口の増加  
→ 社会保障関係費、医療費、etc の増高  
→ 必要な経費(歳出)が増える



公共施設の維持、更新にかけられる  
費用が少なくなる

## 公共施設の老朽化問題

### ◇見えてきた課題

人口減少による税収減など、  
公共施設を維持・更新する経費の不足



今後、公共施設を現在の規模のまま、  
大規模改修や建替え等を行っていくことは到底困難

今後、人口が減少していく



人口増加に対応して建設された学校や市営住宅など、  
余剰が発生する可能性

高齢者の増加や子どもの数の減少



社会のニーズや公共施設の利用、需要に変化が生じている

## 公共施設の老朽化問題

### ◇目標

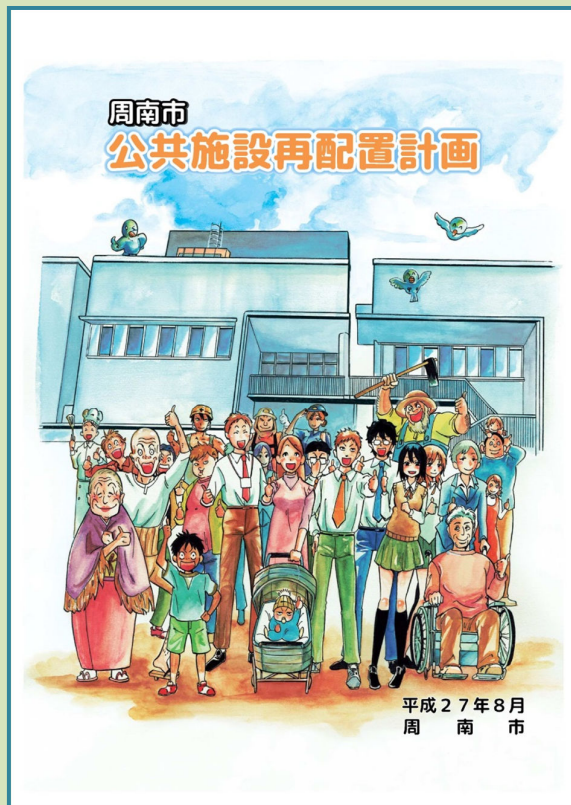
市民の皆さんが必要とするサービスを将来にわたって維持・  
提供していくことを基本とし、「公共施設の最適な配置」と「財政  
負担の軽減」などに向け取組み、周南市の「身の丈」に合った  
公共施設の実現を図っていく

周南市はそのために・・・

# 周南市公共施設再配置計画

を策定しました。

## 「周南市公共施設再配置計画」の内容



- ◇計画期間  
平成27年度～46年度(20年間)
- ◇対象施設  
公共施設:1,114施設  
(延床面積約84万9千㎡)
- インフラ施設
  - 道路:2,935路線 約1,202km
  - 橋:821橋
  - 上水道管:約597km
  - 簡易水道管:約220km
  - 下水道管:約850km
  - 漁港:4か所
  - 河川:73
  - 農道:17路線 約11km
  - 林道:136路線 約234km

## 「周南市公共施設再配置計画」の内容

### 再配置計画の構成と主な内容

#### 第1編 公共施設再配置基本計画

- ①周南市の概要
- ②現状と課題
- ③計画の位置付け等
- ④基本方針
- ⑤計画目標
- ⑥計画の管理方法

#### 第2編 アクションプランの策定(策定の流れ)

- ⑦アクションプラン
- ⑧分類別取組み方策
- ⑨地域別の取組み方策
- ⑩インフラ施設に対する取組み方策
- ⑪検討対象外施設の取組み方策

## 「周南市公共施設再配置計画」の内容

### 基本方針：公共施設の保有のあり方 (4つの最適化)

- 社会環境や市民ニーズの変化に対応したサービスの提供を目指す ⇒ 「サービスの最適化」
- 効果的で効率的な施設の管理運営を目指す ⇒ 「コストの最適化」
- 次世代に継承可能な施設保有量を目指す ⇒ 「量の最適化」
- 安全に、安心して使用できる施設の整備を目指す ⇒ 「性能の最適化」

## 「周南市公共施設再配置計画」の内容

### 基本方針：地域の拠点となる施設への取組み

地域の拠点となる総合支所や支所、公民館を中心とした地域づくりの推進と、それらで行われている機能、提供されている住民サービスについては維持していくことを基本として、公共施設の再配置に取り組めます。





## 「周南市公共施設再配置計画」の内容

### 取組み方針：住民や議会との情報共有と市民参画

市民と行政が公共施設に関する現状や課題などの情報を共有し、議論を重ねながら、公共施設のあるべき姿を構築していく必要がある

- ①施設に関する情報を住民や議会に対して分かりやすくお知らせする
- ②アクションプランの策定に当たっては、計画段階からワークショップや協議会の設置など、市民参画を得ながら進める

## 「周南市公共施設再配置計画」の内容

### 基本的な考え方：施設の整備方針

- 市が保有している土地建物の有効活用を優先的に検討する
- 将来の公共施設総量の抑制を目指す
- 地域の人口規模や動向、施設の利用状況や利用方法を考慮し、必要なサービス機能を確保しつつ、必要最小限の延床面積とする
- 維持管理が容易で、今後の社会情勢の変化に対応できるような可変性のある躯体構造・設計とする
- 施設の多目的化、複合化に努める

「周南市公共施設再配置計画」の内容

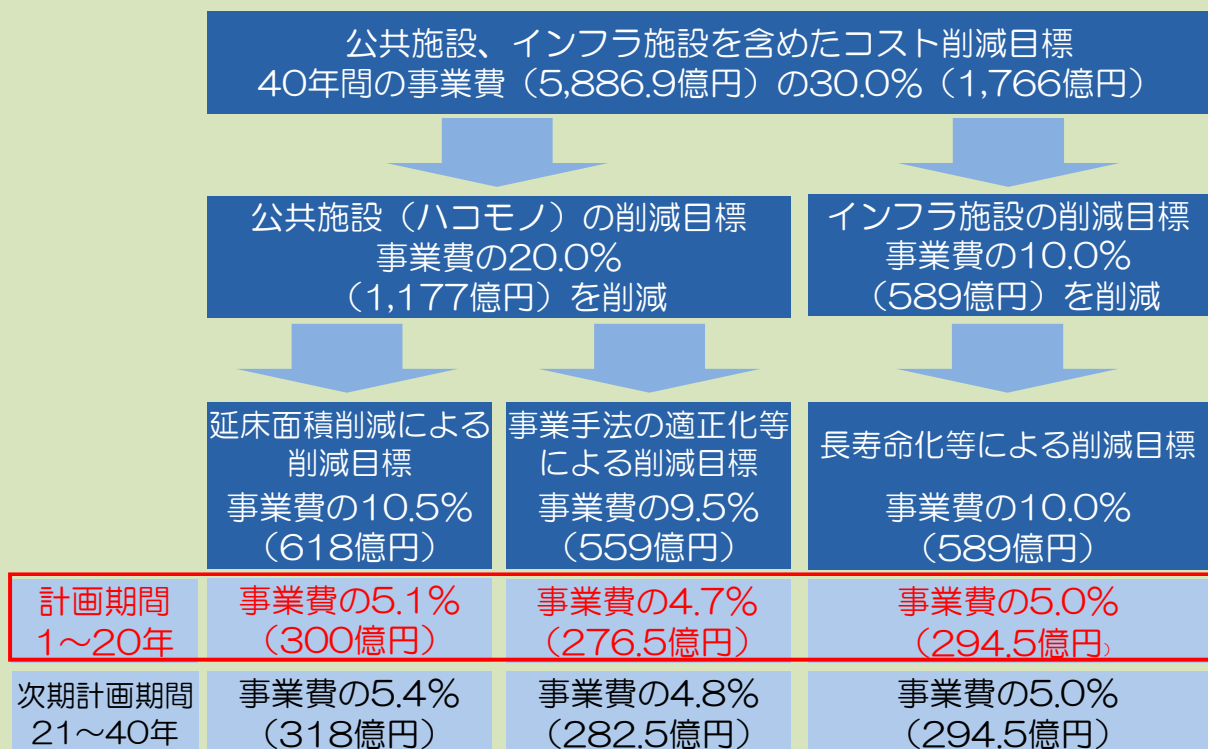
◇計画目標

今後40年間で不足すると予測される**更新経費の30%(1,766億円)**を、再配置を進めながら**削減**していく。

【具体的な目標】

- ①施設の集約化などによる延べ床面積の削減  
や事業手法の見直しなどにより  
**20%(約1,177億円)の削減を実現**
- ②インフラ施設の長寿命化により  
**10%(約589億円)の削減を実現**

「周南市公共施設再配置計画」の内容



## 「アクションプラン」について

### ◇4つのアクションプランの策定

#### アクションプランとは

計画に基づき公共施設マネジメントに取り組むうえで、実現性・実効性を高めるために、実際の取り組みに向けて策定するもの

#### アクションプランの種類

1. 「施設分類別計画」
2. 「地域別計画」
3. 「長期修繕計画」
4. 「長寿命化計画」

## 「アクションプラン」について

### 1. 「施設分類別計画」

公民館や保育園、消防団機庫など、それぞれの施設分野ごとに、提供しているサービスや建物の状況等をもとに、施設の今後の取扱いや方向性、整備等の優先度などを示す計画

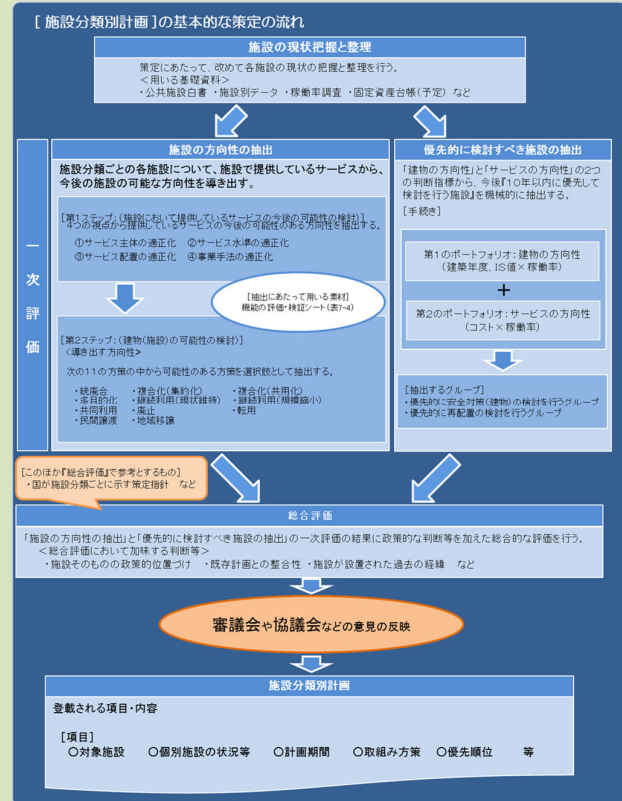
- ・建物の状況（建築年、安全性など）
- ・施設の稼働率
- ・提供しているサービス
- ・施設が設置された経緯
- ・市の施策との整合性
- ・今後の取扱い、方向性、優先度などを個々の施設ごとに示す

## 「アクションプラン」について

この「施設分類別計画」が、次の「地域別計画」の策定につながっていく。

今後の再編・再配置の基本となる計画

＜基本的な方針＞  
全ての施設分類について  
平成29年度中に策定



## 「アクションプラン」について

### 2. 「地域別計画」

○地域ごとに、地域にある施設をどのように再編・再配置していくかを示す計画

○市として優先的に対応すべき施設がある地域から策定を行っていく(市内全地域一斉ではない)

○策定にあたっては、地域住民の方々と行政が一緒になって、「共に」協働作業によりつくり上げていく

モデル事業はこの段階

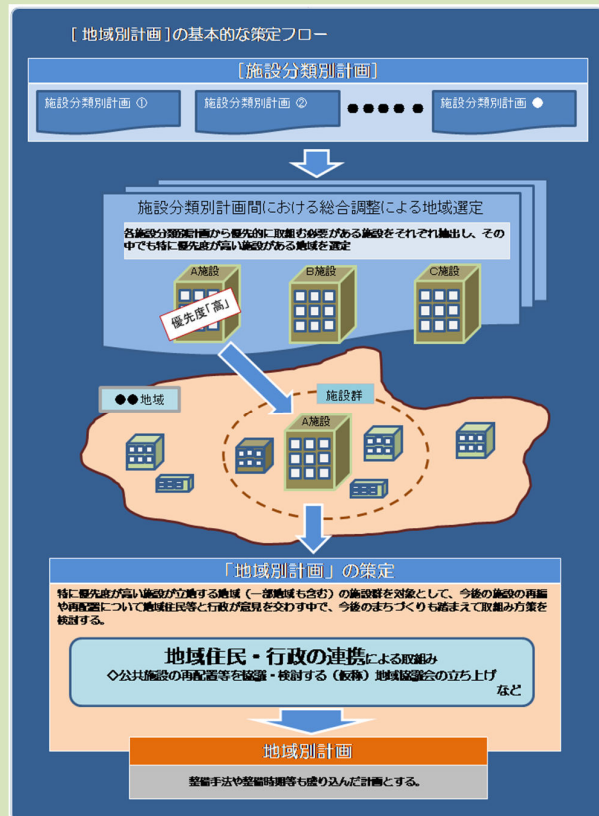
## 「アクションプラン」について

### 1. 施設分類別計画間における総合調整による地域選定

策定された施設分類別計画から優先的に取り組むべき施設を抽出、総合的に判断し、市として最優先に取り組むべき施設と、それが立地する地域を選定

### 2. 地域住民の皆さんを交えた協議を行い、地域別計画を策定

選定された施設と、その周辺施設を対象として、今後の施設の再編・再配置について、地域住民等と行政が意見を交わし、今後のまちづくりも踏まえて取り組み方を検討、その結果を地域別計画としてとりまとめる



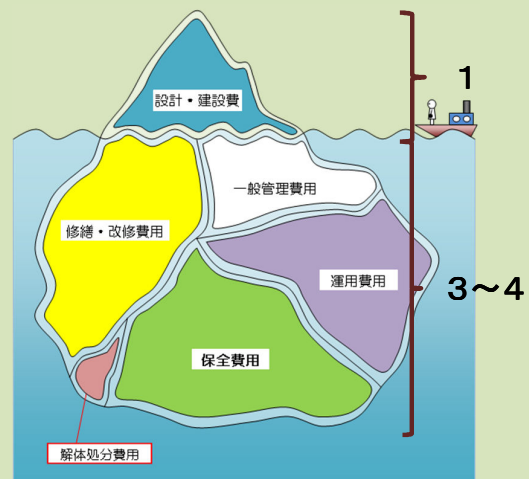
## 「アクションプラン」について

### 3. 「長期修繕計画」

いわゆる「ハコモノ」と言われる公共施設について、計画的に維持・補修を行い、その**寿命を延ばす**ために策定する計画

### 4. 「長寿命化計画」

道路や橋りょう、上下水道などのインフラ施設を対象に、その**寿命を延ばす**ために策定する計画



施設の一生にかかる費用のうち設計や建築にかかる費用は氷山の一角であり、建設後、施設を安全に使用するためには、設計・建築費用の3倍から4倍の費用がかかると言われている。

## モデル事業の進め方

### ◇モデル事業とは

今後、公共施設の再配置を市民の皆さんと行政が一緒になって取り組むにあたり、「公共施設の再配置とは何なのか」「どのように進めていくのか」を、実際の取り組みを通じて市民の皆さんに理解していただくために実施するもの

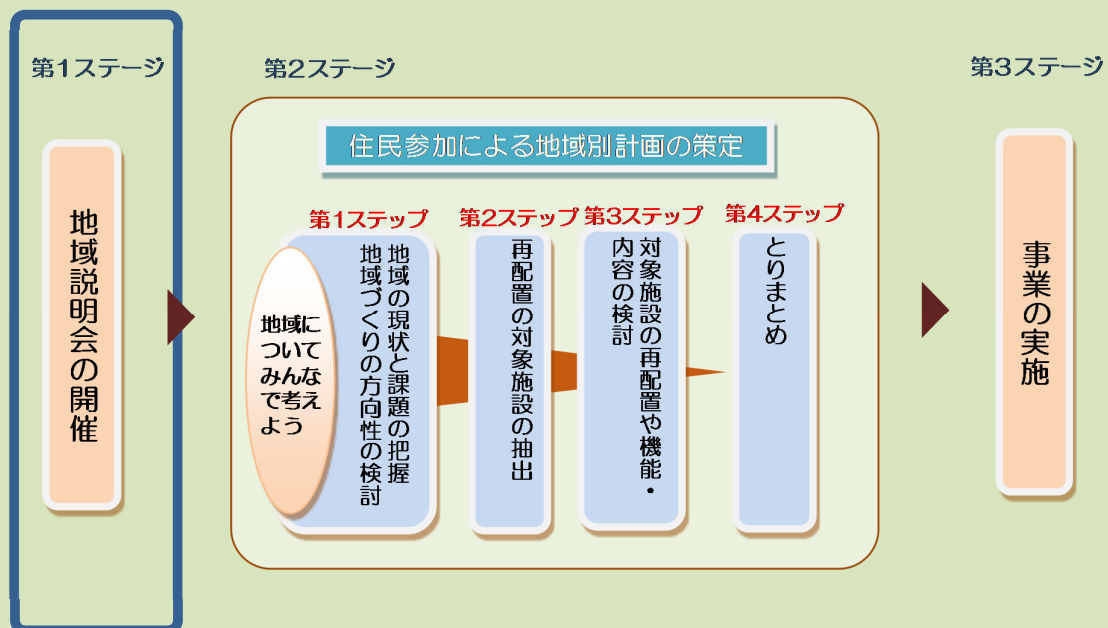
### ◇「長穂地域」と「和田地域」で行う

選ばれた理由：

地域の中心施設である支所・公民館について、老朽化していて耐震性がなく、建物の一部が土砂災害特別警戒区域にかかっているため

## モデル事業の進め方

### ◇モデル事業の進め方



## モデル事業の進め方

### 第1ステージ(地域説明会の開催)

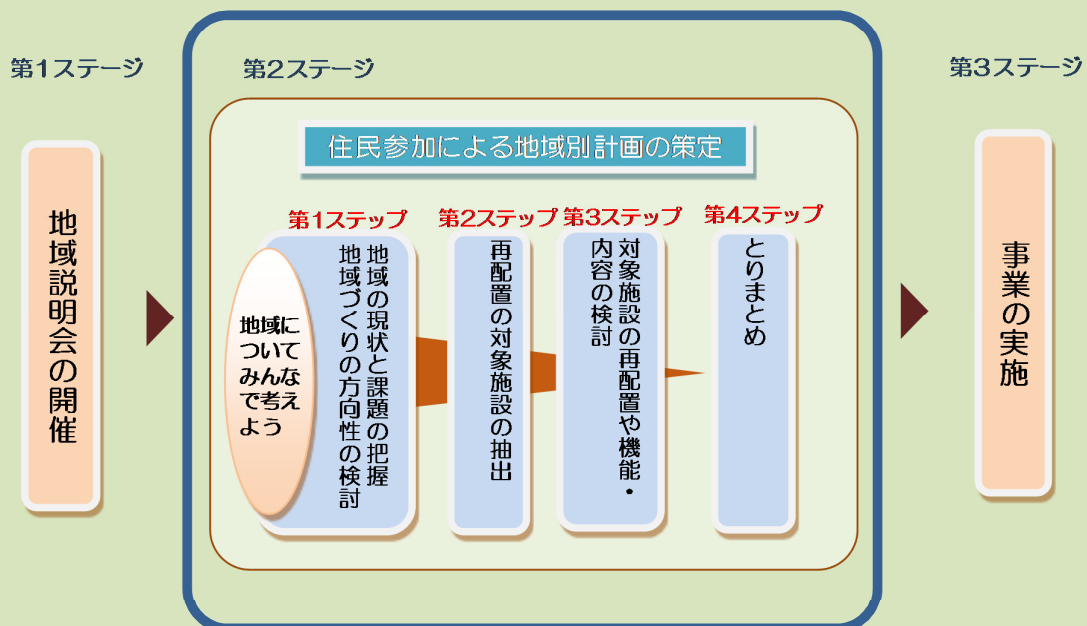
地域においてしっかり説明し、取組みについてご理解をいただく。

#### [説明事項]

- 公共施設再配置の目的
- モデル事業の内容、モデル地域とした理由
- 今後の進め方等

## モデル事業の進め方

### ◇モデル事業の進め方



## 第2ステージ

### (住民参加による地域別計画の策定)

地域の住民と行政が一緒になって再配置に向け取り組む

(これからの地域のあり方を考えて)

#### [取組み手法]

「ワークショップ形式」「協議会形式」など、地域住民と市職員が共に参加する協働作業により、地域の公共施設について考えていく

## 第2ステージ(住民参加による地域別計画の策定)

### **【第1ステップ】地域の現状と課題の把握等**

地域の課題や問題、特色などについて参加者がしっかりと話し合い、整理していく。その中から参加者全員で今後の地域の方向性を考える。

### **【第2ステップ】対象となる施設の抽出**

第1ステップを踏まえた上で、参加者全員で再配置の対象となる施設を絞り込んでいく。



## モデル事業の進め方

### 第2ステージ(住民参加による地域別計画の策定)

#### 【第3ステップ】対象施設の再配置の検討

- 具体的な再配置（位置、規模）
- 施設の形態（複合施設、単独施設）
- 施設に付加するサービスや機能
- 施設の運営方法 など

#### 【第4ステップ】計画のとりまとめ

検討の成果を踏まえ、計画としてとりまとめる。

## モデル事業の進め方

### ◇モデル事業の進め方

第1ステージ

地域説明会の開催

第2ステージ

住民参加による地域別計画の策定

第1ステップ 第2ステップ 第3ステップ 第4ステップ

地域についてみんなであらう

地域の現状と課題の把握  
地域づくりの方向性の検討

再配置の対象施設の抽出

対象施設の再配置や機能・  
内容の検討

とりまとめ

第3ステージ

事業の実施

## モデル事業の進め方

### 第3ステージ(事業の実施)

計画に基づき、出来る限り早期に施設の整備・再配置に取り組む

#### <施設整備の基本的な流れ>

##### ○基本設計

施設を整備するための基本的な事柄を決める  
(構造、間取り、機能、敷地利用など)

##### ○実施設計

実際に施設を建築、改修するための設計図を描く  
(柱の太さ、壁の厚さ、使用する部材など)

##### ○建築・改修工事

実際の工事を行う

## モデル事業の進め方

### 長穂地域での動き

#### 【第1ステップ】地域の現状と課題の把握等

第1回 H27.12.13「私たちの長穂、○○だったらいいね」

第2回 H28.2.14「私たちの長穂、もう一度見つめてみよう」

第3回 H28.3.13「私たちの長穂、もう一度見つめてみよう2」

#### 【第2ステップ】対象となる施設の抽出

#### 【第3ステップ】対象施設の再配置の検討

第4回 H28.4.17「私たちの拠点施設、○○だったらいいね」

第5回 H28.5.15「必要な機能を実現できるハードを考えよう」

第6回 H28.7.31「拠点施設の全体像を考えよう」

第7回 H28.8.28「拠点施設の使い方について考えよう」

○グループワークとしてのワークショップは全7回で終了

「データブック」をご参照ください

## まとめ

### 公共施設再配置計画

周南市

- 公共施設の老朽化による安心・安全の問題と、それら施設の更新費用不足の問題に対応する
- 今後の施設保有のあり方(目指すもの)
  - ・市民ニーズの変化に対応するサービスの提供
  - ・効果的で効率的な施設の管理運営
  - ・次の世代に継承可能な施設保有
  - ・安全に、安心して使用できる施設整備

推進主体

### 地域の夢プラン

地域コミュニティ

- 地域住民の手で作りあげる、地域づくりの将来計画
- 地域住民が対話を通じ、地域のあるべき将来像を描き、その実現を図る具体的な目標や活動内容、実行体制などを定める
- そのプランに基づく各種取り組みを、地域の皆さんが自主的・主体的に実施することで、活力ある地域づくりを目指す

概要

まとめ

「公共施設再配置計画」も「地域の夢プラン」も

地域の将来のために  
取り組んでいくもの

(将来の世代により良い環境を残すために)

しっかり協議し、  
“共に”進めていきましょう！

共に。  
周南市

ありがとうございました